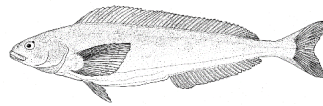


8. ホツケ

道央日本海～オホーツク海海域

主な漁業と漁期
 沖合底びき網：9～翌6月
 沿岸漁業（まき網、底建網、刺し網、えびごぎ網）：3～11月



生態

◆分布・回遊

幼魚は、春には日本海～間宮海峡、夏には日本海に加え、オホーツク海の表層に分布します。秋には、日本海北部、オホーツク海南西部の陸棚上に着底し、翌春には北見、利尻・礼文町周辺、武蔵堆などに分布します。その後、オホーツク海の群れの大部分は、日本海へ移動します。

◆産卵期・産卵場

◎産卵期：盛期は10～12月頃で、北で早く、南で遅い傾向があります。
 ◎産卵場：利尻・礼文島、武蔵堆、積丹半島や寿都湾周辺など、日本海沿岸の岩礁地帯に形成されます。メスは岩礁の窪みに卵を数回に分けて産みつけて、ふ化までオスが保護します。

◆成長・成熟

(1月時点)

	体長(mm)		体重(g)	
	オス	メス	オス	メス
1歳	206	205	107	105
2歳	251	254	220	223
3歳	275	282	304	323
4歳	285	296	347	381

*) 高嶋ら(2013)より
 *) 加齢の基準日：1月1日

◎成熟年齢

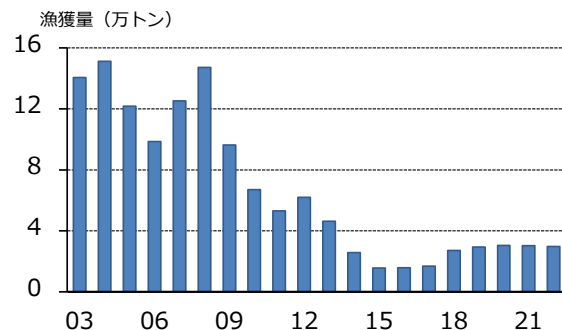
メスは0歳では成熟せず、1歳では大型個体から成熟し、2歳以上でほぼ全てが成熟します。

資源評価

[評価年] 1月～12月

[資源量の指標] 0歳以上の資源重量

2022年度の漁獲量は約3.0万トンで、前年並でした。資源量は2019年級群が最も高い割合を占めており、資源水準は前年に引き続き中水準です。今後の動向は、稚魚調査の結果等から横ばいと判断されました。一方で2019年級以降高豊度の年級群が確認されていないことに加えて、再生産成功率が低い傾向が続いていることから、現在の資源管理措置を維持し低い漁獲圧を維持することが必要です。



2022年度の水準 中水準

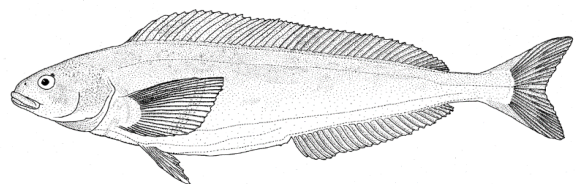
2023年度の動向 横ばい

※道総研が受託している国の資源評価調査のデータも利用して評価しています。

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

- 許可等の条件、漁業権行使規則等で操業期間、漁具の制限等を定めています。
- 親魚や未成魚保護のため、2012年下半期から継続して、漁獲努力量等を自主的に3割程度削減する取り組みを行っています。さらに、2018年以降は2017年級や2019年級に対する緊急的な保護対策が実施され、以降、強化された取組みが継続されています。



☆資源量が中水準まで回復したのは、海域や漁業種の垣根を越えて当該資源を利用するすべての漁業者が協調して取り組んだ自主規制の成果です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
 北海道立総合研究機構 中央水産試験場資源管理部

電話 011-204-5477
 電話 0135-23-8707